



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4603		
科目名	ゼミナールⅢ		
担当教員	川中 敬一		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 5		
講義室	1313	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1－E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4－F〔探究力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4－I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP5－J〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6－K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7－C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP7－L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8－M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 B1 自己啓発（5%） C1 倫理的思考・社会認識（5%） E1 学識と専門技能（15%） F1 探究と論拠（5%） F2 課題解決（5%） I1 理解・分析と読解（5%） I3 情報分析（5%） J1 継続的学修基盤（5%） J2 創造的思考（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） K2 オーラル・コミュニケーション（5%） L1 チームワーク（15%） M1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	防衛省本省及び研究機関、並びに、自衛隊上級司令部幕僚、部隊指揮官、防衛大学校教官等勤務、そして、周辺諸国の国家・軍事戦略の研究と対謀略活動を含む情報活動を加えて30余		

	年勤務してきました。この職務上の経験を通じて、国際関係においては、文化、経済と軍事とが密接に絡み合い、それが政治活動の原動力となっている現実を痛感しました。こうした経験に基づいて、日本ではあまり顧みられない軍事を視野に入れたトータル・グローバリズムを考えていきたいと思っています。（15回）
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、卒業論文につながる個人研究に関して、実際に歴史文献の収集や、社会調査、事例分析や法学的検討など実証的な研究活動を通じて、オリジナルの一次資料による個人研究の作業を開始し、指導します。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためのオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード； 積極性、論理性、独創性
授業の趣旨	■副題 研究内容の暫定的完成と論文の一部完成 ■授業の目的 ゼミナールⅡまでに確定した研究目的に収斂するごとく自ら収集した資料が、それぞれいかなる意義を有しているのかという分析、資料としての信頼性及び論理構成の適否に関する教員と他学生の指導ないし指摘を参考に修正し、不足があれば追加収集ないし加筆、修正する機会を提供します。このプロセスを経て、ゼミナールⅡの終盤には論文の一部完成を遂げることになります。ここで言う「一部完成」とは、序章部分の内容及び序章部分と終章部分との明解な接続を指します。この段階を完遂することにより、ゼミナールⅣの目的である研究の完成と研究論文の本格的執筆に移行することになります。 ■授業のポイント 授業は、指名された学生による司会、発表を指定された学生及びその他学生の運営を基本とします。1回次の発表者は4名で、1人の所要時間は発表10分間と質疑応答10分間を標準とします。 a.司会学生は、限られた時間を発表学生の研究に寄与できるものとするを優先事項と理解し、時間配分と質疑学生指名を積極的に行ってください。 b.発表学生は、限られた時間を有効に活用するために、事前の十分な準備（プレゼンテーション、レジュメ、論文本体、事前予行等）に留意してください。なお、準備物件は事前に教員と他学生に配布する着意が求められます。 c.その他学生は、事前に配布された資料に基づき、論理の飛躍や不適切資料の使用、そして、研究目的に発表内容が収斂するか否かという点に留意して質疑を行ってください。 d.発表後、学生は、必ず教員の指導を教室、又は、研究室で受けてください。
総合到達目標	■学生は、卒業研究活動を通じて、以下の能力を体得することができる。（第1～15回） a.テーマ選定を通じた自身の関心事を具体化する自己啓発力と社会認識力を修得することができる。 b.資料収集及び処理を通じた知識増強と情報分析力を修得することができる。 c.論文執筆力を通じたライティング・コミュニケーション力を修得することができる。 ■学生は、学生発表・討議活動を通じて、以下の能力を体得することができる。（第1～15回） a.司会進行を通じたチームワークにおける指導力を涵養することができる。 b.発表及び質疑を通じたオーラル・コミュニケーション力を涵養することができる。 ■学生は、以上の活動を通じて、学識と専門技能を向上させ、継続的学修基盤を構築し、もって統合的・応用的学修の基礎を獲得することができる。（第1～15回）
成績評価方法	■学生発表・討議12回（60%）： 適用ループリック B1・C1・K1・K2・L1（評価の観点） 以下の点を重視します。 a.指定された期日に発表を実行できたか。 b.発表内容の主旨が明確に他者へ伝わっていたか。 c.定められた様式を守っているか。 d.与えられた時間内に発表を完了できたか。 e.質疑に対する応答が論理的、かつ、柔軟であるか。 f.事前に発表資料（パワーポイントもしくはレジュメ）を準備、配布したか。 g.発表者に対する質疑は積極的、かつ、論理的であったか。 h.教員及び他学生の指導、指摘を記録していたか。 i.司会担当学生の司会は適切であったか。 （フィードバックの方法） a.学生の提出物及び発言に対する授業中における教員からの指導・助言をもって、研究活動及び論文執筆の効率化促進のための参考を提供します。 b.教員によるゼミナール専用ノートの随時点検をもって、授業における教員及び他学生の指導

	ないし指摘の活用情況確認のための参考を提供します。 ■ 論文案提出 1 回（40%）： 適用ルーブリック E 1・F 1・F 2・I 1・I 3・J 1・J 2・M 1 （評価の観点） 以下の点を重視します。 a. 提出期限を守ったか。 b. 定められた様式を守ったか。 c. 研究目的を達成したか。 d. 論理の展開が妥当であるか。 e. 独創性を担保しているか。 f. 使用資料は適切であるか。 g. その他、教員による指導、他学生の指摘を参考、反映しているか。 （フィードバックの方法） 以下の点を文書、又は、メールによって教員から学生に伝達します。 a. 指導ないし指摘事項が反映されているか。 b. 研究活動及び論文執筆が、残余時間と均衡がとれているか。 c. その他、必要事項。	
履修条件	ゼミナールⅠ（RMGT4601）及びⅡ（RMGT4602）を履修していること。	
履修上の注意点	■ 各人は、備忘録と資料保管を兼ねたゼミナール専用ノートを必ず準備し、毎授業持参してください。 ■ 参考書である『アカデミック・スキルズ』及び『分かりやすい公用文の書き方』を論文執筆の際には、必ず利用して、学术界、或いは、官公庁の文書形式に準ずる文章作成に習熟してください。 ■ 研究過程においては、安易な語句の使用を戒め、1つ1つの語句の正確な意味を確認しながら活動を続けてください。	
授業内容	回	内容
	1	① 授業テーマ 研究活動・論文執筆に関する全般指導（第1回） ② 授業内容 学生は、教員による全般的注意を参考にして研究活動の適否に関する再点検をすることにより、爾後の研究活動の指針を最終的に決定することができる。また、学生は、論文執筆に際しての留意事項を確認することができる。（B1・E1・M1） ③ 予習（120分） ゼミナールⅡ最終回次授業の結果に鑑みた研究計画及び論文執筆途中成果を再読し、要すれば修正・加筆し、自身及び教員用のコピーを準備し授業に持参する。 ④ 復習（120分） 授業中における教員による指導事項を記録したゼミナール専用ノートを再読し、研究計画書及び執筆論文途中成果に反映させる。
	2	① 授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第1回第1グループ） ② 授業内容 指名された司会学生は、指定された学生（4名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。（B1・E1・K1・K2・L1） 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。（B1・E1・J1・J2・K1・K2） 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（B1・E1・J1） ③ 予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをA4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④ 復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
	3	① 授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第1回第2グループ） ② 授業内容 指名された司会学生は、指定された学生（4名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学

	生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。（B 1・E 1・K 1・K 2・L 1） 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。（B 1・E 1・J 1・J 2・K 1・K 2） 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（B 1・E 1・J 1） ③予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをA 4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを読み、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
4	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第1回第3グループ） ②授業内容 指名された司会学生は、指定された学生（4名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。（B 1・E 1・K 1・K 2・L 1） 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。（B 1・E 1・J 1・J 2・K 1・K 2） 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（B 1・E 1・J 1） ③予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをA 4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを読み、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
5	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第2回第1グループ） ②授業内容 指名された司会学生は、指定された学生（4名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。（B 1・E 1・K 1・K 2・L 1） 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。（B 1・E 1・J 1・J 2・K 1・K 2） 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（B 1・E 1・J 1） ③予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをA 4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを読み、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
6	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第2回第2グループ） ②授業内容 指名された司会学生は、指定された学生（4名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。（B 1・E 1・K 1・K 2・L 1） 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。（B 1・E 1・J 1・J 2・K 1・K 2） 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（B 1・E 1・J 1）

	③予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをA 4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを読み、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
7	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第2回第3グループ） ②授業内容 指名された司会学生は、指定された学生（4名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。（B 1・E 1・K 1・K 2・L 1） 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。（B 1・E 1・J 1・J 2・K 1・K 2） 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（B 1・E 1・J 1） ③予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをA 4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを読み、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
8	①授業テーマ 研究活動・論文執筆に関する全般指導（第2回） ②授業内容 学生は、教員による全般的指導を参考として研究活動の適否に関する再点検をすることにより、爾後の研究活動・論文執筆の効率化を促進することができる。また、学生は、論文執筆に際しての注意事項を再確認することができる。（B 1・E 1・F 1・F 2・I 1・J 1・M 1） ③予習（120分） 第7回授業までの指導・指摘事項を再確認した結果を論文に反映させる。また、修正済み論文成果を教員用にコピーし、授業に持参して提出する。 ④復習（120分） 授業中における教員による指導事項を記録したゼミナール専用ノートを読み、執筆中の論文に反映させる。
9	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第3回第1グループ） ②授業内容 指名された司会学生は、指定された学生（4名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。（B 1・E 1・K 1・K 2・L 1） 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。（B 1・E 1・J 1・J 2・K 1・K 2） 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（B 1・E 1・J 1） ③予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをA 4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを読み、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
10	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第3回第2グループ） ②授業内容 指名された司会学生は、指定された学生（4名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学

	生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。(B1・E1・K1・K2・L1) 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。(B1・E1・J1・J2・K1・K2) 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。(B1・E1・J1) ③予習(120分) 発表学生は、発表用レジメをA4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④復習(120分) 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを読み、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
11	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告(第3回第3グループ) ②授業内容 指名された司会学生は、指定された学生(4名)による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。(B1・E1・K1・K2・L1) 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。(B1・E1・J1・J2・K1・K2) 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。(B1・E1・J1) ③予習(120分) 発表学生は、発表用レジメをA4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④復習(120分) 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを読み、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
12	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告(第4回第1グループ) ②授業内容 指名された司会学生は、指定された学生(4名)による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。(B1・E1・K1・K2・L1) 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。(B1・E1・J1・J2・K1・K2) 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。(B1・E1・J1) ③予習(120分) 発表学生は、発表用レジメをA4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④復習(120分) 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを読み、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
13	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告(第4回第2グループ) ②授業内容 指名された司会学生は、指定された学生(4名)による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。(B1・E1・K1・K2・L1) 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。(B1・E1・J1・J2・K1・K2) 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。(B1・E1・J1)

	③予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをA4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
	14 ①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第3回第1グループ） ②授業内容 指名された司会学生は、指定された学生（4名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。特に、発表学生の発表要旨の総括と他学生による質疑を活性化させることに留意する。（B1・E1・K1・K2・L1） 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に聴取側に伝えるコミュニケーション能力を涵養させることができる。（B1・E1・J1・J2・K1・K2） 聴取学生は、発表学生の論理構成の可否を検討することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（B1・E1・J1） ③予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをA4版1～2枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し、授業に持参する。 ④復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生による指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。要すれば、研究計画書の一部改訂を実施する。
	15 ①授業テーマ 研究活動・論文執筆に関する総括的指導 ②授業内容 学生は、セメスター全期間と全ゼミナール所属学生を俯瞰した教員からの指導を受けることにより、より高度な総合的・応用的学術活動の標準を知悉し、もって自身の学識と専門技能を向上させることができる。（E1・C1・E1） ③予習（120分） 第14回授業までに自身が再構想した研究計画書及び執筆した論文を再読し、ゼミナールⅣにおける研究活動・論文執筆実行方針を策定し、ゼミナール専用ノートに記述する。なお、第15回授業には、各学生とも、その時点までに執筆した論文の案のコピーを持参し、これを教員に提出するものとする。 ④復習（120分） 授業中における教員が提示した総括的指導事項を記録したゼミナール専用ノートを再読し、ゼミナールⅣ用研究計画を策定する。ゼミナールⅣ開講までの期間、卒業論文執筆を継続する。
関連科目	危機管理基礎演習Ⅰ(RMGT2601)、ゼミナールⅠ(RMGT4601)、ゼミナールⅡ(RMGT4602)、ゼミナールⅣ(RMGT4604)
教科書	石黒圭『この1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本』（日本実業出版社、2012年）ISBN:978-4-53404927-8（1,400円（税抜）） その他、授業中に逐次、教員から別途案内します。
参考書・参考URL	以下の他、授業中に逐次、教員から別途案内します。 （1）佐藤望『アカデミック・スキルズ』慶應義塾大学出版会、2006年、ISBN:978-4-7664-1960-3（定価：1,000円（税別）） （2）磯崎陽輔『分かりやすい公用文の書き方 改訂版（増補）』ぎょうせい、2018年、ISBN:978-4-324-10525-2（定価：2,000円（税別））
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日3限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントをとることにより研究室等に対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント30%：パブリックセキュリティ30%：グローバルセキュリティ40%：情報セキュリティ0% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学90%：法学10%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.